

2012年1月1日発行

NPO法人 RGS 協会発行 編集人 堀内孝之 〒146-0094 東京都大田区東矢口 2-18-17 ●TEL 03-3757-3389 ●FAX 03-5482-8827

いつの間にか

井関 真人



シャンソンの世界にお世話になるようになってから、いつの間にか四十一年となりました。

中学生の時に既に役者になりた
いと思ひ、大学も演劇学科を卒業
劇団に入り、劇団まで創ったとい
うのに、気がつけば歌の道に…。

母も若い頃は銀幕の人でした。
ある日、「これからの役者は音楽
が必要よ、これからは〈音楽劇〉
というのが流行ると思うわ」と。
とにもかくにも、世の中の動きに
対して先見の明がある母親でした。
その頃、浜庫先生こと、浜口庫
之助師がリズム・ミュージック・
カレッジ（R・M・C）という学



▲井関 真人氏

校を開校。そこへ行ったら、とい
う母の助言で、高校を卒業したば
かりの若造が、図々しくも内弟子
にしてほしいと押しかけたのです
が、二度ともけんもほろろに断ら
れました。しかし、三度目に浜庫
先生ご本人が会って下さり、「一
年間は学校で生徒として勉強しな
さい。もし君が一生懸命やったら
内弟子にしてもいいよ」と言っ
て下さいました。

大師匠のその言葉で、歌唱・作
詞・作曲の修行、落語で言えば前
座修行が始まりました。しかし大
師匠は、最初の一年は歌も作詞も
曲も何も教えてくれないのです。
すべて俺のを盗め！それが教え
でした。

ただ一つ、挨拶等の礼儀作法、
そして来る日も来る日も発声練習
とリズムレッスン、そればかりを
二年間やらされました。その二年
間が今の私を創ってくれたことは、
その時はまったく気づかず、何で

こんなことばかりとグチの出る毎
日でした。

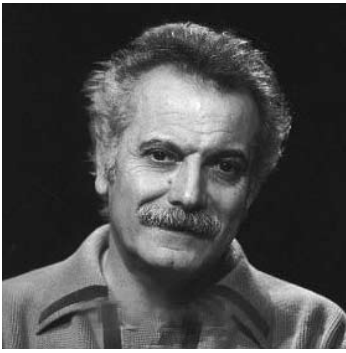
歌唱のほうはR・M・Cにピア
ノ伴奏教師としてご教授下さった
のがシャンソン歌手の有馬泉師で
した。その頃の私は、シャンソン
のシャの字も知らず、師より渡さ
れた「アリーヌ」や「恋心」等を
稽古していただけでした。大
学にも一年遅れで入学、芝居と歌
の二足の稽古が始まった四年間
でした。

これが私とシャンソンの出会い、
この間にも大波小波、山あり谷あ
り、いろいろと試練、経験、雑念、
失敗、失礼、多々ありましたが、
今こうして歌ってこられたことは
その時々の諸先輩方のご助言や励
まし、多くのお客様に支えられて
きたからだと思います。

一日、一つの山を登り切る、そ
して降りてまた登る、どこまでも
人生の音楽の階段は続いていくと
思います。いつまでたつても拙芸
ですが、今後ともよろしくお願
い申し上げます。

（筆者はシャンソン歌手）

☆☆☆ギター片手にブラッサンス☆☆☆



▲ジョルジュ・ブラッサンス

ジョルジュ・ブラッサンスは一九二一年十月二十二日に南仏セートで生まれている。歌唱法も作曲法も独学で、ギターも独学で学んだシャンソン歌手である。

反骨精神に満ちた自作のシャンソンで人気を獲得した。彼のギターを弾き、歌うといったスタイルは当時はあまり見られず、六十年代になってフォークがブームになってからは珍しくなくなった。日本には早くから紹介されたので

知っている人も多い。

ブラッサンスはパリに住む叔母を頼って一九四〇年に移り住む。パリはドイツに占領され、彼も強制労働をさせられるが、一年後に脱走する。

戦後、アナーキスト同盟の機関紙で働き、詩作と作曲りをしている。その後ポピノ・オランピアの大ホールを満員にしたという。

こんな中、私生活は順風満帆だったわけではなく、五九年には結石で倒れ、六三年には三度の手術を受けている。そして腸ガンによる死を迎えるのが六十歳の時である。

ムスタキやバルバラが彼の歌を歌っても、彼以上には歌えない不思議さがある。彼の人生における生き方によるものかもしれない。

(T・H記)

シヤソツツ名訳・迷訳

ルネ・クレール監督のトーキー映画第一作の主題歌で、日本人をパリにすっかり憧れさせてしまった名作ですが、映画の場面は全部セットを使用したそうです。

Sous les toits de Paris

*Sous les toits de Paris
Tu vois ma petite Nini
On peut vivre heureux et bien uni
Nous sommes seul's ici-bas
On ne s'en aperçoit pas
On se rapproche un peu plus et voilà!
Tant que tu m'aimes bien
Je n'ai besoin de rien
Près de ta maman
Tu n'as pas de tourments
C'est ainsi que cœur à cœur
On cueille, comme une fleur
Sous les toits de Paris, le Bonheur*

*Sous les toits de Paris
Dans ma chambre ma Nini
On s'aim'ra, c'est si bon d'être unis!
C'est quand on a vingt ans,
Quand fleurit le printemps,
Qu'il faut s'aimer, sans perdre un instant
L'air était très pur
Et le ciel d'azur
Ell'dit: "Je ne veux pas!"
Puis elle se donna.
C'est ainsi qu'en ce jour
La vainqueur, comme toujours
Sous les toits de Paris, fut l'amour!*



パリの屋根の下

パリの屋根の下に
僕の可愛いニニがいる
人は幸福に生き、結ばれている
僕たちはここでひとりぼっち
人はお互いに気づかないが、
ちょっと近づけば、ほら!
君が僕を愛してさえくれば
僕は何もいらぬ
君のお母さんの傍では
君は悩みはない
人はこんな風に心と心
花のように
パリの屋根の下で、幸福を掴む

パリの屋根の下の
僕の部屋に僕のニニがいる
愛し合い、結ばれるのはすばらしい!
はたちになり
春が花咲くとき
一瞬も失わずに愛し合わねばならない
空気は非常に清らか
そして紺碧の空
彼女は「私はいや」と言った
そして身をまかした
こんな風にして、この日
勝利者は、いつも
パリの屋根の下、恋だった!

日本生まれのシャンソン

出水 京人



ブルース特有の『タン・タタン

タ・タンタ・タンタ』というシャツフルのリズムに乗りながら、音階のうちミ（三番目）と、シ（七番目）の音が半音下がった『ブルー

ノート』が要所に使われ、大人の香りを醸し出す不思議なシャンソン、それが『ラブソングを聴きながら』だ。

鋼屋铸造さんの歌詞はノスタルジックで、ウイスキーのグラスを片手に鼻歌交じりでちよつと歌ってみたくなる。



▲出水 京人氏

しかし、歌ってみると、この歌は音域が非常に幅広く、音も低音から高音に一気に駆け抜けるため非常に難しく、まさに『歌い手泣かせの一曲』でもある。

作曲された峯藤高さんはさらりと歌っておられるが、まさに超歌唱力のあるプロ中のプロ歌手だからこそできる『匠技』なのだろう。

しかし、歌えば歌うほど、なんとなく少しずつ歌えるようになって、そして味が出てくる不思議な歌、歌っていると、淡い過去の思い出の中に知らず知らずのうちにいざなわれる歌、『ラブソングを聴きながら』、この歌はまさに非常に奥深い一曲だと思う。

この歌とは長い付き合いになりそうな気がする。

(シャンソン歌い手)

ラブソングを聴きながら

作詞 鋼屋 铸造
作曲 峯 藤高

ラブソングを聴きながら
くつろぐ夜にビールを飲めば
煌めく泡にぬれる思い出
初めての恋は麦色の涙
憧れ秘めて、仄かに消えた
ああ、ほろ苦い初恋の夢
ラブソングを聴きながら
想い出たどり、さまよい巡る

ラブソングを聴きながら
くつろぐ夜にワインに酔えば
漂う香りに揺れる思い出
仮初の愛は甘い誘惑
刹那に燃えて、空しく過ぎた
ああ、面映ゆい青春の夢
ラブソングを聴きながら
想い出たどり、さまよい巡る

酔いのまにまに夢の影法師
ああ、懐かしい過ぎし年月
ラブソングを聴きながら
想い出たどり、さまよい巡る……
ラブソングを聴きながら
想い出たどり、さまよい巡る

●メロディー・楽譜は発売中の「日本生まれのシャンソン」に掲載



●シャンソンの流れる店

市川
ミワ



コーヒーショップとして普段営業している「ミワ」は、JR総武

線市川駅北口にあります。日本中には海外でもご活躍のシャンソン歌手井関真人さんが、奥の一室を教室として借りようと四年前に話に行つたところ、あなたがやるなら全部譲ると言われ、経営することになったそうです。

五十席あり、月に一〜二回シャンソンのライブを行い、その他はシャンソンはもちろん、落語、講談、オペラ、語り部、手品、詩の朗読、時にはお弟子さんの独唱会、発表会とさまざまなジャンルを催し、貸しホールとしても利用されているようです。

店長自慢のコーヒー、レアチーズケーキ、フルーツサンドを召し

上がりながら、これらの催しに参加して下さい。

シャンソン教室のグループレッスンは、お弟子さんの夏木好子さんが担当し、個人レッスンは井関さん本人があたられているとか。

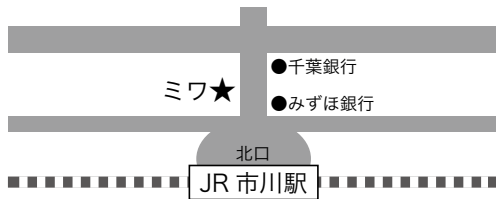


▲カフェ「ミワ」

店はフル活用のお店です。

若いカップルには甘い恋の香りがするよう心がけ、奥様方には静かな想いのひとときを……と努めているそうです。

木の温もりのするセピア色の店内に、皆様に来ていただき、楽しいひとときを過ごしてもらえよう、店主一同お待ちしておりますとのことです。
(T・H記)



市川駅北口駅前「カフェ・ミワ(内) B1F」
お食事もできます

ミワ
市川市市川 1-9-2 B1
047-326-9827
047-326-3139 (コパン)
047-322-2432 (IMO)

CHANSON RGSシャンソン研究会発行

発売中 日本生まれのシャンソン I

CD・カラオケ付き 定価 2000円 送料300円



●第4回「日本生まれのシャンソン I」を歌う会は平成24年9月30日ギャラリー橋本にて開催
●「日本生まれのシャンソン」ホームページ <http://rgschanson.com>